

能登半島の海岸で見かけたウミネコです。青く穏やかな海の中、海面からわずかに頭を出した岩の上に一羽だけとまり、潮風を受けながら羽を休めていました。背や翼の濃い青灰色と白い腹、黄色い脚、そして先端付近に赤色と黒色の模様がある黄色い嘴は、ウミネコの成鳥らしい特徴です。頭部には灰褐色の斑が見られ、夏羽から冬羽へと移り変わりつつある時期の姿と思われます。

ところで、このウミネコが休んでいる岩は、もともとこのように海面上へ大きく姿を現していたものではありません。2024 年の能登半島地震では、半島北部を中心に海岸が広い範囲で隆起し、それまで海中や波打ち際にあった岩礁が水面上へ現れた場所が各地で見られます。この岩も、そうした地震による地殻変動によって、新たに海上へ姿を現した岩の一つです。

人間にとって地震による大規模な地殻変動は、道路や港湾、集落などに甚大な被害をもたらしました。一方、自然界を眺めてみると、新しく生まれた海岸や岩礁は、早くも生きものたちに利用され始めています。周囲を海に囲まれ、外敵も近づきにくいこの岩は、ウミネコにとっては格好の休息場所なのでしょう。大地震によって一瞬のうちに変わった能登の海岸地形と、それをさっそく生活の場として利用する野鳥の姿が、一枚の写真の中に重なって見えます。

(2026 年 8 月上旬／石川県輪島市)

